

茅ヶ崎市の住宅地におけるニホンアナグマ *Meles anakuma* の観察記録と生息環境の検討

馬谷原 武之・小室 明彦・山岸 幸矢

Takeyuki Mayahara, Akihiko Komuro and Yukiya Yamagishi:
Record and Habitat Conditions of the Japanese badger
(*Meles anakuma*) in a Suburban Residential Area, Chigasaki,
Kanagawa Prefecture

Abstract. One individual of the Japanese badger *Meles anakuma* Temminck, 1844 was recorded in the Honson district residential area, Chigasaki, Kanagawa prefecture, at night on April 30, 2018. This was the first record of *Meles anakuma* in Chigasaki to date. In order to evaluate and conserve the habitat of *Meles anakuma* in this area and ensure a harmonious relationship between badger and human activities, further investigation of the suburban residential habitat, and the accumulation of local ecological data, are necessary.

はじめに

ニホンアナグマ *Meles anakuma* Temminck, 1844 は日本固有の食肉目イタチ科アナグマ属の哺乳類で、本州、九州、四国、小豆島に生息している (Kaneko *et al* 2016)。一般的に平地から丘陵地の森林に生息しており (神奈川県立生命の星・地球博物館編 2003)、地域によっては捕獲・駆除等によって個体数減少の危機にあるといわれている (Kaneko *et al.*, 2017)。一方、近年都市近郊域や郊外 (東京都日の出町) の住宅地において生息が確認されており (金子・丸山, 2005)、さらに都市化が進んだ地域 (東京都府中市) の小規模緑地でも生息が確認されている (長光・金子, 2017)。

神奈川県において近年は主に箱根や丹沢を中心に山間部やその周辺部 (秦野市, 中井町, 厚木市, 旧津久井町 等) などで報告されている (神奈川県立生命の星・地球博物館編, 2003; 安藤ほか, 2007; 藤吉ほか, 2007; 相模原市立博物館市史編さん班 (津久井町史担当) 2013; 中井町生物多様性調査会, 2018 等)。

茅ヶ崎市は周囲を寒川町, 藤沢市, 相模川を挟み平塚市に囲まれている (図 1)。過去の茅ヶ崎市周辺部における報告では、1985 年 6 月に平塚市明石町での保護記録がある (神奈川県環境部自然保護課, 1992)。近年の報告では、寒川市倉見の相模川沿いの河川敷において、2013 年夏期にカメラトラップにより一度確認されている (寒川動植物調査会, 2015)。また、藤沢市内に

おける哺乳類相の調査 (藤沢市都市整備部公園みどり課 2014) では、これまでにニホンアナグマの報告はされていない。

茅ヶ崎市内においては、生息域が重なると考えられる主な中型哺乳類では、ホンドタヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus* Temminck, 1838, ハクビシン *Paguma larvata* (C. E. H. Smith, 1827), アライグマ *Procyon lotor* (Linnaeus, 1758) の報告はあるが (岸, 1994, 2003; 馬谷原, 2012), これまでにニホンアナグマは報告されていない。

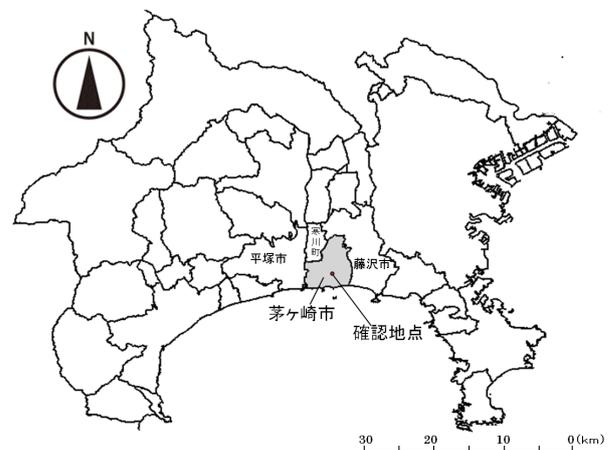


図 1. ニホンアナグマの確認地点。

今回、神奈川県茅ヶ崎市内の都市化が進みつつある住宅地においてニホンアナグマが確認されたため、その状況を報告し、生息環境について検討する。

確認地概要

今回ニホンアナグマを確認した地域は、神奈川県茅ヶ崎市南部の本村地区である(図1, 図2)。都市化が進んだ都市近郊部の住宅地で、地域内には、緑地として神社や寺院、公園、住宅地、畑地が点在し、地形としては約5–10 mの高低差がある。

ニホンアナグマが確認された場所は、茅ヶ崎市本村4丁目の本村八王子神社(35° 20' 13" N, 139° 24' 45" E WGS84 測地系)周辺部である(図2)。本村八王子神社の敷地面積は2400 m²で、敷地の北側の約1/3はケヤキやタブなどからなる社叢林に覆われ(小室ほか, 2011)、北側の敷地境には地面が露出した斜面がある。周辺には本村八王子神社東側の神奈川県道404号線道路をくぐる形で下部に東西方向に走る生活道路があり、その東側には約2000 m²の緑地が存在する寺院(海前寺)がある。本村八王子神社周辺部は、生活道路および片側1車線で比較的交通量の多い幹線道路(国道1号線、県道404号遠藤茅ヶ崎線、および茅ヶ崎市道0217号線)に囲まれている(図2)。

観察記録

2018年4月30日22時30分ごろ、茅ヶ崎市本村の住宅地内の生活道路で山岸が、単独で歩行するニホンアナグマ1個体を確認し、目視による観察と写真撮影を行った(図3)。

確認されたニホンアナグマは、頭胴長が目測から60

cm程度であったことから成獣と考えられる。雌雄の判別はできなかった。

近隣の北部の畑地の方から住宅道路に向かいゆっくり歩き、駐車中の自動車の下に入り込んでいった。自動車の下部には30分程度滞在し、舗装のシミの臭いを嗅いでいるように見えた。その後、自動車のライトが当たると、南側の本村八王子神社の社叢林の方向にゆっくり歩き始め、暗闇の中に進んでいき見えなくなった。移動経路は北側の畑地、住宅地道路、神社の社叢林であった(図2, 4)。2018年4月30日に確認後、2018年8月下旬までの間に当地で再度ニホンアナグマの確認は出来ていない。

また、2018年8月9日9:30–11:00、8月17日18:00–19:00に本村八王子神社を中心に国道1号線北側の約60,000 m²の範囲で、神社や寺院等のまとまった緑地空間やその周辺部、道路脇の土壌露出部等を踏査し、目視での簡易的な確認地周辺部の環境調査をおこなったが、この短時間での調査時には巣穴や、ため糞等、生息の痕跡は見つからなかった。

考察

これまで茅ヶ崎市ではニホンアナグマの生息は確認されておらず、今回確認された個体が、この場所に生息しているのか、一時的に他の生息地から移動してきたのかは分からない。周辺は比較的交通量が多い幹線道路に囲まれており、大きな移動は困難と考えられるが、東側の県道404号線下部に生活用道路があり東側に移動している可能性もあることから、生息空間はさらに広い可能性もある。また、地域内には神社や寺院などの緑地や畑地が半径200–300 mの範囲内に点在しており、地形についても営巣地となる様な土壌が露出した斜面が存在す

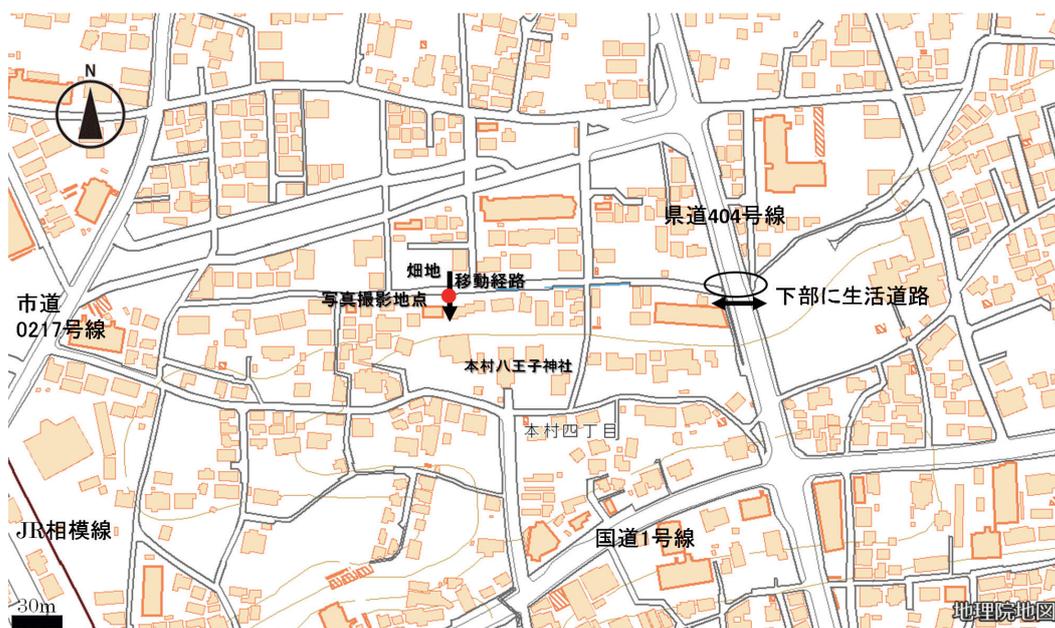


図2. ニホンアナグマの確認地点の詳細(国土地理院地図, 一部改変)(矢印は移動経路)。



図3. 確認された二ホンアナグマ(2018年4月30日撮影).



図4. ニホンアナグマの確認地点概観(2018年10月30日撮影)(矢印は移動経路,奥に社叢林が見える).

る。ニホンアナグマは行動圏の中に約300 m 間隔で巣穴を掘るとされているが(金子, 2008), 近年は都市化が進んだ地域の小規模緑地でも生息が確認(長光・金子, 2017)されている。今回の確認地にこのような環境が存在しているため, 以前から生息している可能性は十分に考えられる。また, 確認地周辺では, たびたびホンダタヌキ・ハクビシン・アライグマが目撃されている(山岸, 私信)。ニホンアナグマとホンダタヌキは同所的に生息し, DNA による判別により同一地点に両方のため糞場が確認されることがある(松木ほか, 2008)ため, 当地においても生息域が他の中型哺乳類と重なっていることも考えられる。

一時的な移動によるものだとすると, ニホンアナグマのオスは繁殖期の春から初夏に活動範囲が広くなり頻繁に移動する習性がある(Kaneko *et al.*, 2014)ことから, 近隣にこれまでに確認されていない生息地が存在し, 4月下旬に一時的に当地で確認された可能性もある。

また, 今回の確認地から北東2 km の位置に茅ヶ崎市の砂丘地・低地と丘陵地を南北に分ける, 高低差が30–40 m の赤羽根地区の斜面林があり, さらに北部の丘陵地には谷戸と雑木林が広がる里地里山的な環境が見られる(茅ヶ崎市, 2006; 2018)。これまでにニホン

アナグマの生息記録はないものの, これらの地域はその環境からニホンアナグマの生息場所としての条件を満たしていると考えられ, 北部に生息していた個体が南部の住宅地に移動してきた可能性も考えられる。また, 確認地との間に交通量が多い道路を挟むが, 鉄道の線路沿いや河川, 水路等を伝って遠方から移動してくるルートも考えられる。

まとめ

今回は観察記録と, 確認地での簡易な環境調査に基づいてニホンアナグマの生息の可能性について若干の考察をおこなった。確認された個体は1個体のみであり, 遠方の生息地からの移動個体がたまたま確認された可能性もある。しかし, 現在のニホンアナグマの分布やその広がり, 今回確認された都市化が進んだ都市近郊域住宅地での生態については分からない部分が多い。今後, 当地での継続した調査と周辺環境のデータの蓄積を行うことにより, 都市近郊域での人間活動と密接に繋がった野生動物の生息状況の解明, 生息地保全や共生, 相互関係の評価に繋げていくことができると考えられる。

謝辞

本稿を執筆するにあたり, 査読者から多くの有益なコメントを頂いた。記して感謝の意を表する。

引用文献

- 安藤元一・太田真琴・吉田竜太郎・大久保慶信・鈴木 圭, 2007. II 中小型哺乳類 1. 地上性・樹上性の中小型哺乳類. 丹沢大山総合調査学術報告書, 165–175.
- 茅ヶ崎市, 2006. 茅ヶ崎市自然環境評価調査概要報告 自然環境評価マップで茅ヶ崎の自然を見てみよう。(環境部環境政策課環境政策担当 編). 42 pp. 茅ヶ崎市, 神奈川.
- 茅ヶ崎市, 2018. 第3回茅ヶ崎市自然環境評価調査概要報告 茅ヶ崎の自然を見てみよう 2017.(都市部景観みどり課 編). 37 pp. 茅ヶ崎市, 神奈川.
- 藤沢市都市整備部公園みどり課, 2014. 調査で確認された生物種一覧 藤沢市自然環境実態調査. 438 pp. 藤沢市都市整備部公園みどり課, 神奈川.
- 藤吉敬子・宇山 智・井上和宏・浅野嗣三・渋谷香奈子・瀧澤恵・菅原野花・岩本 順・藤原怜史・黒島祥一・竹村和記・石川康裕・藤吉正明, 2007. 神奈川県弘法山公園において自動撮影と夜間観察で得られた哺乳類の記録. 神奈川自然誌資料, (28): 59–65.
- 神奈川県環境部自然保護課, 1992. かながわの鳥と獣 神奈川県鳥獣生息分布調査報告書. 88 pp. 神奈川県.
- 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 2003. 哺乳類. かながわの自然図鑑3. 140 pp. 有隣堂, 横浜.
- 金子 弥生, 2008. 生活史と生態—ニホンアナグマ. 日本の哺乳類学 2 中大型哺乳類・霊長類(高槻成紀・山極寿一 編): 76–99. 東京大学出版会, 東京.
- Kaneko, Y., Buesching, C. D. & C. Newman. 2017. Ecologists warn of Japanese badger cull 'crisis'. *Nature*, 544: 161.
- Kaneko, Y., E. Kanda, S. Tashima, R. Masuda, C.

- Newman, & D. W. Macdonald, 2014. The socio-spatial dynamics of the Japanese badger (*Meles anakuma*). *Journal of Mammalogy*, 95(2): 290–300.
- 金子 弥生, 丸山 直樹, 2005. 東京都市近郊におけるニホンアナグマ (*Meles meles anakuma*) の体重及び栄養状態への地域住民の餌づけの影響. 哺乳類科学, 45(2): 157–164.
- Kaneko, Y., R. Masuda, & A.V. Abramov, 2016. "*Meles anakuma*". The IUCN Red List of Threatened Species 2016-2. <http://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2016-1.RLTS.T136242A45221049.en>
- 岸 一弘, 1994. 茅ヶ崎市及び周辺地域におけるホンダタヌキの記録. 文化資料館調査研究報告, 2: 17–26.
- 岸 一弘, 2003. 茅ヶ崎市におけるタイワンリス, ハクビシン, アライグマの記録. 文化資料館調査研究報告, 11: 9–15.
- 小室明彦・馬谷原武之・須藤格・自然資料整理グループ, 2011. 茅ヶ崎市における社叢林調査. 文化資料館調査研究報告, 20: 1–68.
- 松木吏弓・竹内亨・阿部聖哉・梨本真・平田智隆・金尾充浩・阪田和弘, 2008. アナグマ・タヌキのため糞からのDNA情報を利用した種判定および個体識別. DNA多型, 16: 55–59.
- 馬谷原武之, 2012. 茅ヶ崎市中海岸地区住宅地でのカメラトラップによる野生動物定点調査. 文化資料館調査研究報告, 21: 103–108.
- 長光 郁実・金子 弥生, 2017. 東京都府中市の微小緑地における食肉目動物の生息状況. 哺乳類科学, 57(1): 85–89.
- 中井町生物多様性調査会, 2018. 中井町生物多様性調査報告書 学術版. 199 pp. 中井町, 神奈川.
- 相模原市立博物館市史編さん班(津久井町史担当) 編, 2013. 津久井町の動物(津久井町史調査報告書). 69 pp. 相模原市, 神奈川.
- 寒川動植物調査会, 2015. 寒川町動植物調査報告書. 95 pp. 寒川町役場 環境課, 神奈川.

馬谷原 武之: 茅ヶ崎市文化資料館

小室 明彦・山岸 幸矢: 茅ヶ崎市